

宮崎公立大「国際情報学科」を来春新設

地域の課題 デジタルで挑む



宮崎市長
清山 知憲氏

きよやま・ともり 1981年宮崎市生まれ。東京大医学部卒。県内外で医師として勤務後、2011年から宮崎県議に2期連続で当選。22年に宮崎市長選で初当選し、第29代宮崎市長に就任。現在2期目を務める。

魅力向上、市に大きなプラス

記念対談



宮崎公立大学長
辻 利則氏

つじ・としのり 1963年えびの市生まれ。宮崎大大学院工学研究科博士課程修了。博士（工学）。93年に宮崎公立大に着任、2008年から教授。学生部長、人文学部長を経て23年4月に第9代学長に就任した。専門はシステム工学、災害情報。

自ら考え、未来開く「人」育成

宮崎公立大学（宮崎市）は2027年4月から人文学部に国際情報学科（定員50人）を新設する。少子高齢化による人手不足や急速なAI技術の進展など、多様化・複雑化する社会課題を克服するため「宮崎市の知の拠点」はどのような人材を育成していくのか。宮崎市の清山知憲市長と、宮崎公立大の辻利則学長が語り合った。

新たな選択肢を

―新学科を開設する目的は何ですか。

辻「少子高齢化や人口減少に伴う人手不足が課題となる中、社会や産業を支えるデジタル人材の育成は国の重点政策であり、地域社会からも強い要請があります。県内で情報学を専門的に学べるところはまだ限られているため、若者に新たな学びの選択肢を提供し、地域のデジタル化を担う人を育てることが新学科を開設する大きな理由です」

「単にAI（人工知能）やデジタル技術習得だけでなく、何のために、誰のために、社会にどのような影響を与えるかまで考えられる人材を育成する。そこで本学が培ってきたリベラル・アーツ教育と情報科学を組み合わせた、文理融合型の国際情報学科を開設することにしました」

幅広い活躍期待

―新学科から輩出される人材に期待することは。

清山「文系の高等教育機関を創出すべく、1993年に当時の宮崎市などが宮崎公立大学を開学し、これまで多くの有為な人材が地域に輩出されてきました。デジタルやAIが社会に実装されていく時代において、リベラル・アーツとデジタル技術を融合した人材の育成は、地元にとっても大きなプラスです」

「宮崎市は中心市街地に3千人の雇用創出を目指す『マチナカ3000』に取り組み、ICT（情報通信技術）企業や半導体関連企業の集積が進んでいます。戦略的な企業誘致を推進する上でも、デジタル人材不足への対応は不可欠です」

「国際情報学科で育成されるデジタル人材が将来幅広い分野で活躍し、社会で求められる人材として地域を支えていくことを大いに期待しています」

「広い視野で見れば、宮崎市に複数の大学があることは大きな強みであり、今後の人口維持を考え

を学べるのでしょうか。

辻「AI、データサイエンス、プログラミングなど、情報技術の基礎から応用までを段階的に学びます。同時に英語などの語学力をはじめ、文化、社会、法律、経済といった幅広い教養も身に付けます。さらに企業や地域と連携した課題解決型学習（PBL）、インターンシップ（就業体験）、ゼミなどを通して実際の課題を発見し、他者と協働しながら解決策を考える経験を積みます」

―宮崎市はデジタル技術を最大限活用して市民が豊かに暮らせるまちづくりを目指しています。具体的な取り組みはどのようなものですか。

清山「本市は市民、地域、市役所それぞれにおいてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しています。特に力を入れていたのが『行かない・書かない・待たない』窓口の実現です。対象となる行政手続き約1300件のオンライン化を進め、すでに7割が完了しました。2025年度の申請数は約3・2万件と23年度の約1・5万件から大幅に増加し、多くが出産応援給付金や児童手当などの申請です。市民の移動や待ち時間を解消し『時間をお返しする』ために役立つものと考えています」

ます」

「市役所内ではペーパーレス化やリモート会議の推進によって職員の時間外勤務の削減、業務効率化も図っています。市民の生活をより便利にし、暮らしやすいサービスの実現に向けて取り組んでいます」

―国際情報学科で学ぶ強みやカリキュラムの特徴は。

辻「国際情報学科では情報科学を専門的に学びながら、人間や文化、社会について幅広く考える力を身に付けます。自ら考え、自分の意見を発信できるのがリベラル・アーツ教育の特徴です」

「国際文化学科と合同で学ぶ『地域共創入門』では、学生が地域に赴いて現場の方々と一緒に課題を探り、アイデアを出します。異なる専門性を持つ学生同士がそれぞれの知識や考え方を持ち寄り、一つの課題を多角的に捉え、よりよい解決策を生み出す経験は、両学科の学生にとって大きな力になるでしょう」

「語学教育や留学の機会が両学科に共通していることも本学の魅力です。国際情報学科の学生も（短期の）異文化実習や（長期の）公費派遣留学など、これまで本学が培ってきた留学制度や支援を利用できます」

―学長の今後の抱負をお聞かせください。

辻「AIや情報技術の進展は目覚ましく、私たちは今、時代が一つステップアップしたような『新たな産業革命』の真っただ中にあると感じます。しかし、それほど時代が変わっても変えてはならないものがあります。それは本学がこだわりたい『人』の育成です。社会の要請に応える知識や技能を備えた『人材』を育てることはもちろん、自分で考えて判断し、社会に対して責任を持つて行動できる教養ある『人』を育てることこそ、本学の最も大切な使命です。これからも自ら考え、未来を切り開いていける『人』を育てるために、全力を尽くしていきます」